

小谷小だより

E-mail:kodani-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

第 11 号
令和7年
2月18日

参観日・とんど開催



1月19日、地域やPTAの皆様のご尽力によるとんど焼きと参観授業が行われました。

前日はたくさんの地域の方々、PTAの皆様にお越しいただき、とんどの準備が進められました。当日は風もなく、絶好のとんど日和の中、無事とんどが実施されました。6年生による点火、高く高く燃え上がる炎、大きな音をたてて破裂する竹どれをとっても、思い出に残る一コマでした。

また、昨年に引き続き、餅つきを実施していただきました。日頃できない経験をさせていただいたことで、子供たちが大変喜んでいました。下校後は、おいしそうに家族でお餅を焼いて食べる光景が、たくさん見られました。

授業参観も多くのご保護者の方にお越しいただき、子供たちの頑張る姿をご覧いただきました。

皆様と過ごす心豊かな一日となりました。地域の皆様や保護者の皆様、本当にありがとうございました。



「聞く力・聴く力」を育てる

コロナ禍において、良好な人間関係をつくったり人間関係作りのスキルを学んだりする機会が減少していたことにより、生活や学習の場面で子供たちの「聞く力・聴く力」がやや弱まっているように感じています。

「聞く力・聴く力」は、コミュニケーション、学習、問題解決に欠かせないスキルです。相手の話を理解し、適切に反応するために重要です。

子供の「聞く力・聴く力」を育てるためには、次のような方法が効果的だといわれています。

- 意識的に注意を向ける。(話す人の方を向いて聞く。)
- 話しているものに目を向け、気が散るものを排除する。(ものを持っていたら、手に意識が集中してしまうので、なるべくものをもたないようにする。)
- 話の内容に関心を持ち、理解したいという意識を持つ。(なるほどと思ったときにはうなずきながら聞く。)
- 話している人の身振り手振りや表情にも注意する。(話す人の様子をよく見る。)
- 分からないところや詳細を知りたい場合は、質問する。(わからないことは、聞いてみる。)
- 話が終わったら、自分なりに要約してみる。(読んでもらった本のあらすじや会話の内容の要点を言う。)
- 話している人の感情や立場に共感してみる。(話している人の立場に立って考えてみる。ただし、自分というバイパスを通っているので、100%話し手の思いに立てているわけではないことは理解しておくことも必要かもしれません。)

子供の「聞く力・聴く力」を育てるには、大人自身がどんな態度で接したらよいか、また、どんなコミュニケーションのとり方が子どもに対してよりよい影響を与えられるかなどを意識することが大切だそうです。子供の手本となるような「聞く力・聴く力」を大人が見せていくことが、子供にとってもよい環境づくりとなるようです。

校長 山田 隆